

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



令和7年3月



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局バリアフリー政策課 TEL：03-5253-8111（代）

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。

目次

プログラム

令和7年3月18日（火）

プログラム	2
国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
講評	4
秋山 哲男 委員（中央大学 研究開発機構 教授） 高橋 儀平 委員（東洋大学 名誉教授） 新田 保次 委員（大阪大学 名誉教授） 河野 康子 委員（一般財団法人 日本消費者協会 理事）	
受賞者事例報告	
・全線新設 LRT「ライトライン」におけるユニバーサルデザインと地域活性化の展開 （宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社）	5
・無人駅における社会福祉法人の乗降介助業務等の受託を契機とした、心のバリアフリー推進活動とまちづくり （社会福祉法人ながよ光彩会）	8
・新設サッカースタジアムにおける多様なユニバーサルデザインの深化 （広島市）	11
選考委員紹介	
・選考委員より	13

● 選考委員からの講評

中央大学 研究開発機構 教授	秋山 哲男 氏
東洋大学 名誉教授	高橋 儀平 氏
大阪大学 名誉教授	新田 保次 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社

【全線新設 LRT「ライトライン」におけるユニバーサルデザインと地域活性化の展開】

ライトラインでは、停留場において、車椅子使用者が単独で乗降できる段差等に整備するとともに、幅員の確保やスロープを整備する等、停留場におけるバリアフリー化に取り組んだ。また、停留場付近の横断歩道のエスコートゾーンも整備している。

社会福祉法人ながよ光彩会

【無人駅における社会福祉法人の乗降介助業務等の受託を契機とした、心のバリアフリー推進活動とまちづくり】

社会福祉法人ながよ光彩会は、時間帯無人駅である JR 九州長与駅において、医療・福祉のノウハウを活かし、乗降介助業務等を行っている。また、地域住民や一般企業の方を対象に心のバリアフリーを学ぶ実践的な研修プログラムを実施しているほか、駅構内に設置したカフェ・ショップ等による賑わいの創出等の地域活性化を試みている。

広島市

【新設サッカースタジアムにおける多様なユニバーサルデザインの深化】

広島市が整備を行ったサッカースタジアムであるエディオンピースウイング広島では、障害者等の利便性向上や安心して観戦できるようなセンサリールーム、カームダウンスペースの設置、集団補聴システムの整備等を行っている。このことから、ユニバーサルデザインに基づく、先進的なスタジアムである。

● 表彰状授与式

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成 18 年 12 月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成 19 年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第 18 回となる今回も、推薦された取組の中で特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件を、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学	研究開発機構	教授
高橋 儀平	東洋大学	名誉教授	
新田 保次	大阪大学	名誉教授	
河野 康子	一般財団法人	日本消費者協会	理事

第 18 回受賞者の決定

9 候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、3 件の受賞者を決定しました。

第 18 回となる今年度の表彰においては、全国各地から 9 件のご推薦を頂きました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全 9 件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）にわたる幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄軌道・宿泊施設・スポーツ施設といった公共交通や建築物等についてバリアフリー化を進める取組みが見られるほか、障害者等への接遇向上を図るための講習・検定を実施するソフト面での取組みなど、きめ細かなバリアフリー化を進める取組みも見られます。

また、障害がある人、ない人がともに共生していくという意思を体現する場として、インクルーシブの理念を取り入れた施設整備も見られるところです。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に進めていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社」は、LRT 路線のバリアフリー整備がされておりました。特に停留場における段差・隙間について、多くの障害当事者が乗降可能となるよう全ての停留場を整備しています。また、車椅子でも単独で乗降しやすいよう幅員の確保やスロープを設置するとともに、視覚障害者向けに付近のエスコートゾーンも整備されています。これらの取組みを評価し表彰することとしました。

「社会福祉法人ながよ光彩会」は、時間帯無人駅である長与駅において、JR 九州より業務一部委託を受け、医療・介護のノウハウを活かし、乗降介助業務等を行っています。また、長与駅において地域住民や一般企業の方を対象として「心のバリアフリー」を学ぶ実践的な研修プログラムを実施しており、先進的な取組みであることを高く評価し表彰することとしました。

「広島市」は、サッカースタジアムであるエディオンピースウイング広島を新設するに当たって、障害当事者を含むワークショップを丁寧に行い意見を聴取するとともに、バリアフリー施設として、センサリールーム、カームダウンスペースの設置、集団補聴システムを整備するなど、今後、建設されるスタジアムの模範となりうる内容であることを高く評価し表彰することとしました。

今回ご推薦いただいたもののなかには、興味深い取組みであるものの、近年開始したばかりのため、まだ利用者等の評価が十分になされておらず、残念ながら今年度の受賞とはならなかった取組みもありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>

宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール 全線新設 LRT「ライトライン」におけるユニバーサルデザ

株式会社 インと地域活性化の展開

講 評

一般に言われている LRT の都市における役割は、まず魅力ある都市と地域の再生を担う役割があること。交通においては、①環境負荷軽減（環境負荷の小さい交通体系の実現）、②公共交通のネットワーク充実（乗換え利便性向上）、③交通手段転換による交通の円滑化（自動車交通が LRT に転換）、④交通のバリアフリー化（誰もが安全に利用しやすい交通機関）、等の重要な役割を果たすことである。

LRT「ライトライン」は、日本の今までの LRT と比較すると④交通のバリアフリー化を満たしている数少ない LRT の一つと考えられる。

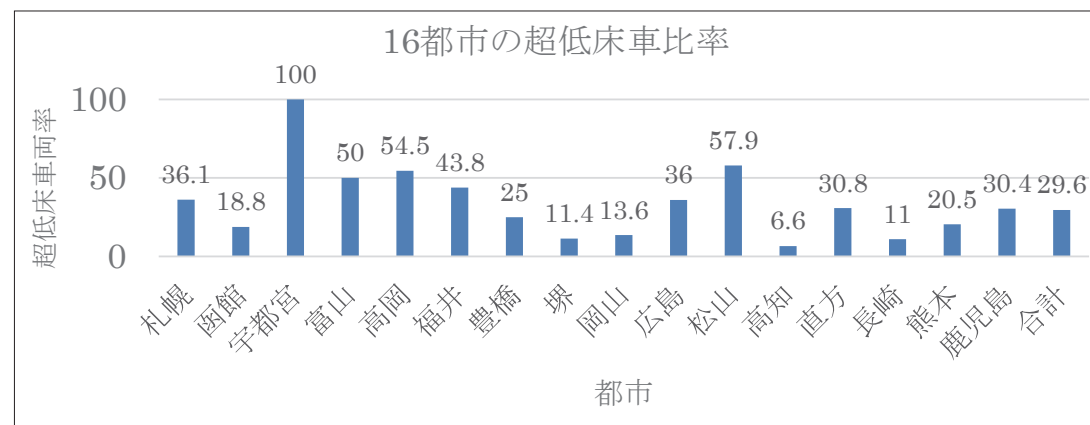
受賞者の取組み

<取組みの概要>

ライトラインでは、障害者の利便性向上等のため、段差・隙間の目安値を全路線において達成するとともに、幅員の確保やスロープの設置等の整備も行われており、バリアフリー化が高い水準で整備されている。

●車両のバリアフリー

超低床車両の比率は日本全国 16 都市の超低床車両比率は平均 29.6%である。この中で宇都宮市は 100%であり、ほとんどの都市が 6 割も満たない中で際立ったバリアフリー車両を導入している。



16 都市の超低床車比率（委員提供）

●車両とホームのバリアフリー

選考委員会の秋山委員のサンプリングでの測定であるが宇都宮の停留場の多くが段差（3cm）、隙間（7cm）を守っている。これは珍しいことで、他の都市で守っているのは富山市の一部の LRT などしていくつもない。



車椅子による降車の様子



ベビーカーによる降車の様子

●ホームと道路のバリアフリー

段差解消は多くの都市の LRT で実施されており、ライトラインもほぼ 100%できている。

◎今後期待される取組み

ライトラインのバリアフリーの評価は上記 3 項目はほぼ達成しているが、道路横断・線路横断については、道路の線路横断の基準が出されて間もないこともあり、道路の横断はある程度行われているが、線路の横断はこれからの課題と考えられる。

喜びの声

【コメント】

この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。
本市では、誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現に向け、LRT（ライトライン）を、東西を結ぶ公共交通の基軸として整備を進めてまいりました。
これらの取組に対し、高い評価をいただいたことは、誠に喜ばしく、誇りに感じております。
今回の受賞を励みに、ライトラインが、まちの誇りとしてさらに愛される公共交通となるよう取り組んでまいります。

【連絡先】

栃木県宇都宮市旭 1 - 1 - 5
TEL：028-632-2305（宇都宮市 LRT 整備課協働広報室）

【活動等の経緯】

2013 年 3 月 「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」を策定
2013 年 10 月 芳賀町が芳賀町までの延伸を要望する「LRT 整備に関する要望書」を提出
2015 年 11 月 宇都宮ライトレール株式会社設立（登記申請）



宇都宮市
市長 佐藤 栄一 氏



社会福祉法人ながよ光彩会

無人駅における社会福祉法人の乗降介助業務等の受託を契機とした、心のバリアフリー推進活動とまちづくり

喜びの声

【駅東側区間】宇都宮駅東口停留場～芳賀・高根沢工業団地停留場

2016年 1月 「軌道運送高度化実施計画」の申請（特許申請）

2016年 9月 「軌道運送高度化実施計画」の認定（特許取得）

2017年 8月 「工事施行認可」の申請

2018年 3月 「工事施行認可」の取得

2018年 5月 起工式（用地取得・工事の実施）

2023年 8月 開業

【駅西側区間】≪整備区間≫宇都宮駅東口停留場～教育会館付近

≪検討区間≫教育会館付近～大谷観光地付近

2018年 一定の条件の下での概略的な整備概要案を公表

JR 宇都宮駅の LRT 横断ルート（北ルート）を公表

2020年 JR 宇都宮駅西口の LRT ルート（高架構造）を公表

2022年 JR 宇都宮駅西側の整備区間及び検討区間を公表

【Web-URL】

<https://u-movenext.net/>

【コメント】

この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。

本町では、誰もが容易に移動できる住みよい町の実現にむけ、宇都宮市と協力し、LRT（ライトライン）整備を進めてまいりました。今回の受賞を励みにし、今後もライトラインが皆様に利用しやすく、生活の一部となる公共交通となりますよう事業に取り組んでまいります。

【連絡先】

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井 1020 番地

TEL：028-677-6161（芳賀町都市計画課 LRT 管理係）

【Web-URL】

<https://www.town.tochigi-haga.lg.jp>

【コメント】

この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。

弊社は、ライトラインの運行を担う会社として 2015 年に設立いたしました。2023 年の開業後は、安全で便利な運行に努めてきたところであり、おかげさまで多くの皆様にご利用いただいております。

今回の受賞を励みとし、皆様に便利で快適にご利用いただけるよう、安全運行に取り組んでまいります。

【連絡先】

栃木県宇都宮市下平出町 3110 番地

TEL：028-666-6017（経営企画部 経営企画課）

【Web-URL】

<https://www.miyarail.co.jp/>



芳賀町

町長 大関 一雄 氏



宇都宮ライトレール株式会社

代表取締役社長 高井 徹 氏

講 評

本事例は、九州旅客鉄道株式会社（以下 JR 九州とする）長与駅における一部時間帯の無人駅化への対応として、高齢者施設を運営する社会福祉法人が取り組んだ先進的な無人化駅の受託事業である。全国的にも極めて困難な無人化駅の運営課題に対して、駅を「まちのコンシェルジェ」、「新たな「まちのプラットフォーム」として模索する多様な取組みにより、住民みんなの困りごとをジブンゴトとして捉え、町内外のさまざまな地域住民に働きかける、JR 九州及び長与町と協働した親しみやすいユニバーサルアクションプログラムは、全国各地で同様な課題を抱える無人駅の対策に大きな示唆を与え、その取り組みは高く評価される。

受賞者の取組み

＜取組みの概要＞

社会福祉法人ながよ光彩会では、時間帯無人駅である長与駅において、乗降介助業務を含む業務一部委託を受けている。無人駅対策にとどまらず、賑わいの創設等の地域活性化を試みている。

●長与駅における「GOOOOOOOD STATION（グッドステーション）」の開設

長崎県西彼杵郡長与町にある長与駅は、一部時間帯（正午以降）無人駅となっており、駅員が不在となる時間帯において、車いす使用者等のからだが不自由な方の乗降介助や時間帯によって変わる乗車ホームの案内など、駅利用者の困りごとへの対応が課題となっていた。



GOOOOOOOD STATION



乗降介助業務

社会福祉法人ながよ光彩会は、この駅利用者の困りごとを解決すべく、JR 九州及び長与町に働きかけ、長与駅構内にカフェ・ショップ機能も持つ「GOOOOOOOD STATION（グッドステーション）」を開設し、簡易委託というかたちで駅における乗降介助・改集札・案内・清掃の業務を請け負うなど、高齢者や障害者を含む全ての人が安心して駅を利用できるような取組を実施している。特に乗降介助業務に関しては、鉄道会社が外部の社会福祉法人に対して当該業務を委託する先進的な事例となっている。

●「ユニバーサルアクションプログラム」を実施

障害当事者や長与町、JR 九州等に働きかけ、長与駅および鉄道車両を使用して、地域住民や一般企業等の様々な属性の参加者を対象に「合理的配慮の提供」とは何かを学び、無人駅における利用者・住民同士の助け合いを促進することを目的とした、座学とロールプレイングによる「心のバリアフリー」を学ぶ実践的な研修プログラム（「ユニバーサルアクションプログラム」）を実施している。



ユニバーサルアクションプログラム
(車椅子介助研修)

◎今後期待される取組み

長与駅における法人の取組みは前例のない交通と福祉を掛け合わせる事業として、困難の連続であったと思われるが、従来の法人事業の枠を超える魅力的な活動である。是非この経験を、JR 九州ばかりでなく全国各地の鉄道事業者、自治体、社会福祉法人等と共有し、今後の無人駅対策の一つとして有効に発信して欲しい。

喜びの声

【コメント】

このたびは、大変名誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。
当法人が運営する高齢者事業に登録していた方が行方不明になった際、JR 九州の職員さまが特徴を覚えてくださったことがきっかけとなり、大分県で無事発見されました。この経験を通じ、駅員が地域の安心・安全を守る重要な役割を果たしていることを再認識しました。そこで、正午以降駅員が不在となる長与駅で、福祉の知見を活かした新たな駅運営を行うことで、誰もが安心して暮らせるまちを実現したいという思いから本事業をスタートさせました。
この取り組みを一つのモデルケースとして、全国各地の鉄道事業者や自治体、福祉法人に広く発信し、無人駅運営と地域活性化を両立する持続可能な仕組みづくりに寄与してまいります。



社会福祉法人ながよ光彩会

理事長 貞松 徹 氏



【連絡先】

長崎県西彼杵郡長与町本川内郷 2 - 3
Tel : 095-894-5555

【活動等の経緯】

2014年	1月	社会福祉法人ながよ光彩会 設立
//	3月	特別養護老人ホーム・ショートステイ・小規模多機能型居宅介護 開設
2018年	4月	“ひととまちとくらしの学校” 開設（公益事業）
2020年	7月	みんなのまなびば み館 開設（公益事業拠点）
2022年1	1月	“九州 DREAM STATION にぎわいパートナー” 認定（九州旅客鉄道株式会社）
2023年	4月	“GOOOOOD KAGAYAKI” 開設（就労継続支援 B 型事業所）
//	7月	長与町から長与駅・高田駅の清掃業務 受託
//	9月	JR 九州から長与駅の集改札・案内業務、清掃業務、乗降介助業務 受託
//	9月	長与町、JR 九州、ながよ光彩会の 3 者による「にぎわい創出協定」締結
//	9月	“GOOOOOOOD STATION” 開設
//	10月	国土交通省「心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査事業」採択
2024年	1月	“ユニバーサルアクションプログラム” 提供開始
//	4月	“ユニバーサルアクションプログラム” 長崎県内教育機関への提供開始
2025年	2月	地域再生大賞 準大賞 受賞

【Web-URL】

https://www.instagram.com/tokuyo_kagayaki/

広島市

新設サッカースタジアムにおける多様なユニバーサルデザインの深化

講 評

エディオンピースウイング広島は、新たな地域のにぎわい拠点創出の核を担う、広島市のシンボルとして整備された、約3万席を有するサッカースタジアムである。このスタジアムでは、あらゆる人たちが楽しめるように、最新のユニバーサルデザインに配慮した整備がなされている。代表的なものでは、車椅子席は総席数の1%以上、バリアフリートイレでは6種類35か所、聴覚障害者対応集団補聴システム、新設スタジアムとしては日本初の感覚過敏の特徴がある子どもたちとその家族等が観戦できるセンサリールームなどである。また、このような整備が、障害当事者を含めた、市民参画の共創ワークショップにより、丁寧に行われた点にも特徴がある。よって、ユニバーサルデザインに基づく、先進的なスタジアムとして、国土交通大臣表彰に相応しいものとして認められる。

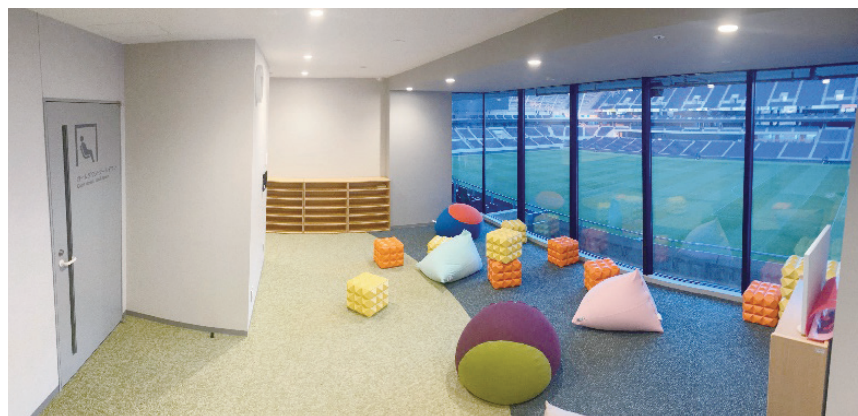
受賞者の取組み

<取組みの概要>

広島市が整備を行ったサッカースタジアムであるエディオンピースウイング広島では、あらゆる人たちが快適に観戦できるようにユニバーサルデザインに配慮した整備がなされている。

●センサリールーム、カームダウンスペース

感覚過敏等の特徴がある発達障害のある子どもたちとその家族が安心して観戦できる部屋であるセンサリールームを常設。また、感覚刺激によるパニックに備え、室内に外部から音や光を遮り、静かに過ごせる場であるカームダウンスペースも設置している。



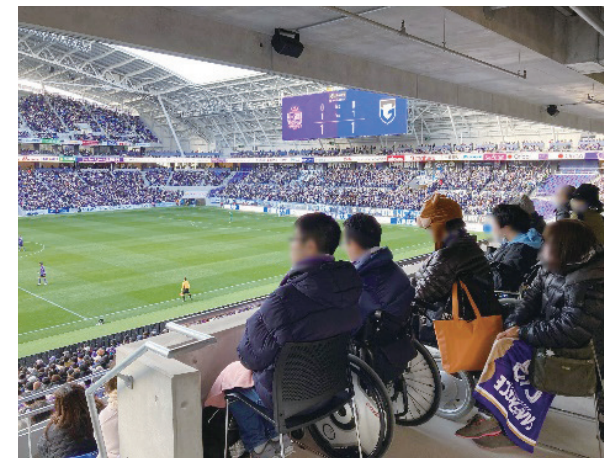
センサリールーム



カームダウンスペース

●その他の特色ある観客席

聴覚障害者が利用しやすくなるよう座席下の磁気ループにより、雑音に邪魔されず、場内音声を補聴器や人工内耳に届けることを可能とする集団補聴システムを整備した観客席や、電動車椅子利用者が充電しながら観戦できるよう各エリアの車椅子席にコンセントボックスを整備している。



車椅子席

◎今後期待される取組み

サッカー観戦のみならず、スタジアム全体が楽しめる施設となっており、当事者参画により得られた知見をスタジアム運営に活かしながら、事後評価を継続することにより、今後の更なる充実・発展を希望する。また、周辺道路などの交通アクセスの整備も含めて、新たな賑わい拠点づくりの核となり、地域が発展することを期待したい。

喜びの声



広島市

市長 松井 一實 氏

【コメント】

この度は、栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。

広島サッカースタジアム（エディオンピースウイング広島）については、サッカーを通じて、平和への願いを国内外に発信する拠点とするとともに、誰もが使いやすく楽しめる施設とするため、建設計画の段階から障害者を含む多くの方からの意見を取り入れるなど、バリアフリーに配慮してまいりました。

広島市は、この度の受賞を励みに、多くの方々の想いが結実し完成したこのスタジアムを、広島の新たなにぎわい拠点とし、市民を始め本市を訪れる多くの方々に魅力的に思ってもらえるよう、バリアフリー化を含め、世界に誇れるまちづくりを一層推進してまいります。

【連絡先】

広島市中区国泰寺町一丁目6番34号
TEL 082-504-2237（スポーツ振興課）

【活動等の経緯】

2013年	6月	サッカースタジアム検討協議会を設置
2019年	2月	事業主体、建設候補地などのサッカースタジアム建設に係る基本事項の決定
2019年	5月	基本方針を策定
2020年	3月	基本計画を策定
2021年	6月	サッカースタジアム等整備事業の開始
2022年	2月	サッカースタジアム本体工事着工
2024年	2月	サッカースタジアム、ペDESTリアンデッキ、駐車場等の供用開始（部分開業）
2024年	8月	広場エリア、Park-PFI にぎわい施設供用開始（全開業）

【Web-URL】

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/>

選考委員紹介

「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」 の今後の課題

秋山 哲男（中央大学研究開発機構）

2007 年度に「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」が創設され、今年度は 18 回目です。受賞した取組みは 2024 年度で総数 73 件になり、毎年約 4 件程度が賞をいただいています。全体の内容は、交通、駅・道路・まちづくり・建築物とハードに関することが約 84%を占めています。

この分野の特徴である地域活動も、数は少ないですが約 12%を占めています。地域別には①北海道・東北、②関東、③中部・近畿、④中国・四国・九州・沖縄がそれぞれ 10 件以上受賞しています。また全国的なものは 5 件です。受賞は全国各地域、また、多方面の分野にわたっています。この点からも一定の役割を果たしてきたかと存じます。今後、バリアフリー化推進功労者の賞は、以下の点を重点として考える必要があります。

第一は、急速にデジタル化社会（DX）が進行し、高齢者・障害者などが取り残されることを防がなければなりません。障害者・高齢者を含む多くの利用者の方々に有効な、**情報（ICT）のアクセシビリティとユーザビリティ（使いやすさ）の確保**です。特に情報化社会があらゆる分野で始まっています。次々に変化する情報のアクセスとユーザビリティ（使いやすさ）は喫緊の課題です。

第二は、特に管理者が異なる複数の施設間の連続性のある使いやすいバリアフリー化と安全性の確保です。例えば、連続性については、建築物、道路、鉄道、空港、公園など従来の構造物バリアフリー化に加えて、複数の同一施設間の連続的に使いやすくすること。さらに、異なる施設間の連続的に使えるバリアフリー化を行うことです。

第三は、目に見えにくい障害についてです。具体的には「発達障害者支援法（平成 16 年、2004 年）」の対象者である①自閉症（ADS）、②学習障害（LD）、③注意欠陥多動性障害、等の対策です。また、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が公布・施行（令和 4 年、2022 年）」に関連する聾啞者に対するコミュニケーション支援です。

第四は、ジェンダー主流化を巡る国際社会における動きを踏まえて、国際規範や基準、国際的な合意等を国内の施策に適切に反映させることです。ジェンダー主流化は、心のバリアフリーや社会モデルなどとも親和性があり、ユニバーサルデザインと連携しつつ普及を図ることが必要です。

●選考委員



秋山 哲男 委員
(中央大学 研究開発機構 教授)



新田 保次 委員
(大阪大学 名誉教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 名誉教授)



河野 康子 委員
(一般財団法人 日本消費者協会 理事)